

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》野田 昌道

【概 要】

精神分析の諸概念や理論は、現代においてもその有用性を保っている。本講義では、フロイトの心的構造論から発展した自我心理学の理論を中心に置きながらも、対象関係論、対人関係論、自己心理学、個人心理学などの他のさまざまな学派や理論を俯瞰し、現代における自我心理学、精神分析の有用性について考えていきたい。

【学習目標】

精神分析諸理論の概要を理解する。

精神分析的な視点や理解の枠組みを身につける。

現代における精神分析の存在意義について理解する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	精神分析とは何か	精神分析諸理論の系譜と日本における精神分析の現状を概観し、本講義における学習の俯瞰図を描く。	野田 昌道
2	フロイトの生涯と精神分析の発展(1)	精神分析がいかに生まれたのかを時代背景とともに振り返り、その臨床的意義について検討する。	野田 昌道
3	フロイトの生涯と精神分析の発展(2)	アンナ・Oの症例をもとに無意識の発見と局所論について学ぶ。	野田 昌道
4	フロイトの生涯と精神分析の発展(3)	フロイトの症状形成仮説と技法(自由連想法)の発展について学ぶ。	野田 昌道
5	フロイトの生涯と精神分析の発展(4)	エディプス・コンプレックスの発見とその意義(心的現実、欲動論への転換等)について理解する。	野田 昌道
6	フロイトの生涯と精神分析の発展(5)	ドラの症例をもとに、転移・逆転移の概念とその治療技法への影響など、精神分析の技法の発展について学ぶ。	野田 昌道
7	フロイトの生涯と精神分析の発展(6)	フロイト後期の理論的展開(局所論から構造論へ)と、精神分析が思想や文化に与えた影響について学ぶ。	野田 昌道
8	フロイト後の精神分析の発展(1)	アンナ・フロイトとメラニー・クラインの論争を軸に、精神分析が諸学派に分かれた経緯やその意義について学ぶ。	野田 昌道
9	フロイト後の精神分析の発展(2)	アメリカにおける自我心理学の展開について、ハルトマン、クリス、エリクソン、マラーらの業績を中心に学ぶ。特にマラーの発達論に力点を置く。	野田 昌道
10	自我の働きとメカニズム	防衛・適応メカニズムを中心に、力動論的自我心理学によって唱えられた自我の諸機能について学ぶ。	野田 昌道
11	精神分析における発達論	クライン、ウィニコット、スターンの発達論を取り上げ、それらの理論が治療的アプローチにどのような影響を与えているのか学ぶ。	野田 昌道
12	自我心理学と対象関係論の統合(1)	境界性パーソナリティ障害の治療のために自我心理学と対象関係論を融合させたカーンバーグの理論を取り上げる。境界性パーソナリティ障害と対象関係論を中心に学ぶ。	野田 昌道
13	自我心理学と対象関係論の統合(2)	カーンバーグのパーソナリティ構造モデル理論と病態論について学ぶ。	野田 昌道

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
14	自己心理学	自我心理学から袂を分かち自己心理学を創設したコフートの理論に関し、自己対象の理論、共感や依存を重視した治療論について学び、現代の間主観性アプローチにつづく流れや自我心理学の考え方との異同を理解する。	野田 昌道
15	精神分析の現在と将来	メンタライゼーションや関係論などを中心に、現代における精神分析の状況と価値について検討する。	野田 昌道

【評価方法】

授業中に課す課題30%、期末レポート70%で評価する。

【備考】

教科書：使用しない

参考書：『力動的精神療法入門』中久喜雅文（2014），岩崎学術出版社

『現代精神分析基礎講座 第1巻』日本精神分析協会精神分析インスティテュート福岡支部編（2018），金剛出版

【学習の準備】

精神分析の理論の発展は、時代や社会の動きと密接に関連している。その理論が生まれた文化や人の営みなど、関連領域にも関心を持ち、率先して調べ、学んでもらいたい。後半では代表的な精神分析家について紹介するので、興味をひかれた理論や研究についてはさらに突っ込んで調べてみてほしい。予習復習には2時間を想定しているが、どちらかというとな復習や関心を広げての読書や考察に十分時間を使ってほしい。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本講義は次のディプロマ・ポリシーと関連している。

「心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得する。」